

府中西 高等学校 令和6年度（2学年用）教科 国語 科目 論理国語

教科：国語 科目：論理国語 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～8組

教科担当者：（1・3組：石黒永子）（2・6・7組：宮田秀子）（4・5・8組：福井妙子）

使用教科書：（よみナビ現代文2、プレミアムカラー国語便覧、辞書アプリ「DONGRI」）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】日常生活に必要な国語において、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わり言葉がもつ価値への認識を深めようとする態度や、読書に頼りみ自己を向上させ我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉の効果的に使おうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
		読 書	説					
論理力と思考力（野矢茂樹） ○思考力と対比して、論理力とは何かを考える。 【知識及び技能】 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、論理の展開を的確に捉えて要旨を把握し、文章の内容について説明したり話し合ったりする。	・「論理力とは、……にはかからない。」とはどういうことか、筆者の考えを整理する。 ・次の①②の推論は正しいか正しくないか、根拠と結論のつなぎ方に着目して判定する。 ①敵は悪態が悪い。だから、営業に向かない。 ②自己管理ができていない人は風邪を引く。逆にいえば、風邪を引くやつは自己管理ができていない。 ・次の①②の伝わり方の違いを説明する。 ①Aさんは仕事が早い。しかし、ミスもする。 ②Aさんは仕事が早い。ただし、ミスもする。 ・「論理力」と「思考力」の関係はどのようなものか、話し合う。	○		【知識及び技能】 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・進んで文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、論理の展開を的確に捉えて要旨を把握し、文章の内容について説明したり話し合ったりしようとしている。	○	○	○	2
納得の構造（渡辺雅子） ○論理の組み立てと文章構成の関係について理解する。 【知識及び技能】 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・文や文章の効果的な組み立て方について理解を深め、学習課題に沿って、論理の展開を的確に捉えて要旨を把握し、文章の内容について説明したり話し合ったりする。	・「納得私たちが物事を……いるわけではない。」とはどういうことか、まとめる。 ・「日本とアメリカの……比べてみよう。」とあるが、両者の「作文構造」についてそれぞれまとめる。 ・「日本の起承転結とアメリカのエッセイの顕著な違い」について、筆者の考えをまとめる。 ・「『演繹的』作文」と「『帰納的』作文」とでは、読み手の受け止め方などにどのような違いがあるか、話し合う。 ・実際に「『演繹的』作文」と「『帰納的』作文」を書いてみる。	○	○		○	○	○	3
情報の「メタ」化（外山滋比古） ○情報の「メタ化」を理解し、思考を整理する方法を考える。 【知識及び技能】 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、論理の展開を的確に捉えて要旨を把握し、文章の内容について説明したり話し合ったりする。	・「同じ新聞でも、……第二次情報である。」とあるが、「第一次情報を第二次情報に変える方法」の具体例を本文からあげ、整理する。 ・「我々が自分で考えた事柄……が考えられる。」とあるが、「段階的抽象化」を進める具体例を本文からあげ、整理する。 ・筆者の考える「思考の整理」とはどのようなものか、本文全体をおとしてまとめる。 ・新聞記事の情報を素材（第一次情報）として取りあげ、より高次の情報（第二次、第三次情報）に整理する。	○			○	○	○	3
学びを広げる 中身当てクイズ コラム「流れ」と「構え」 ○情報から導いた答えを論理的に説明してみる。 【知識及び技能】 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。 【思考力、表現力、判断力等】 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・進んで情報と情報との関係について理解を深め、学習課題に沿って、論理の展開を的確に捉え、筋道を立てて説明する。	・「中身当てクイズ」を解いてみる。 ・手をあげたカップは、どのような情報をもとに答えを導き出したのか、筋道を立てて説明する。	○	○	【知識及び技能】 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 【思考力、表現力、判断力等】 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・進んで情報と情報との関係について理解を深め、学習課題に沿って、論理の展開を的確に捉え、筋道を立てて説明しようとしている。	○	○	○	2
定期考査					○	○		1

<p>めぐみ（鷺田清一）</p> <p>○都市生活における自己と他者の関係について考える。</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりする。 <p>1 学期</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、複数の文章や資料を基に自分の考えを広げ、論証したり討論したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近代の都市生活が寂しいものである理由を整理する。 ・ 「個人はその神経を……社会になっただけだ。」とあるが、どういうことか説明する。 ・ 「現代の都市生活者……疼きと成り現象している」とは、どういうことか説明する。 ・ 「こうした他者との遮断の認識」とあるが、どういうことか説明する。 ・ 「現代生活」における「相互性」、「他者への想像力」の大切さについて具体例を基に話し合う。 		<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、複数の文章や資料を基に自分の考えを広げ、論証したり討論したりしようとしている。 	○ ○ ○	3
<p>ネット上の発言の劣化について（内田樹）</p> <p>○情報の階層化が進むなかで「言論の自由」の意味について考える。</p> <p>【知識及び技能】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「それだけ言論統制が……整っていたとも言える。」とあるが、どういうことか説明する。 ・ 「マス言論というのは、……メタ情報」である。」とはどういうことか、筆者の考えをまとめる。 				

	<p>・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>【思考力、表現力、判断力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりする。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、複数の文章や資料を基に自分の考えを広げ、論証したり討論したりしようとする。 	<p>・ 「情報の階層化」とはどのようなことか、筆者の考えをまとめる。</p> <p>・ 「『情報』はその自体的な……意味がある。」とは、どういうことか説明する。</p> <p>・ 「『言論の自由』という原理」について、筆者の考えを説明する。</p> <p>・ 「『言論の自由』に対する侵害」として筆者が指摘することについて話し合う。</p> <p>・ 前項の話し合いをふまえて「今のネット上の発言に見る一般的傾向」について考えたことを600字程度にまとめる。</p>							2	
	<p>マルジャーナの知恵 (岩井克人)</p> <p>○ 「情報の商品化」という資本主義の現象を理解する。</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 <p>【思考力、表現力、判断力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりする。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、複数の文章や資料を基に自分の考えを広げ、論証したり討論したりしようとする。 	<p>・ 「マルジャーナの知恵」とはどのようなものか、まとめる。</p> <p>・ 「差異から利潤を創り出す」とは、どのようなことか、次の項目ごとに整理する。</p> <p>①商業資本主義 ②産業資本主義</p> <p>・ 「高度情報社会、……と呼ばれる事態」とは、どのようなものが説明する。</p> <p>・ 「情報の商品化」には、どのようなものがあるか、身の回りから具体例をあげ話し合う。</p>							2	
	<p>学びを広げる</p> <p>情報社会について考える</p> <p>コラム 選いインターネット</p> <p>○ 情報社会を生きるうえで大切なことは何か、考えたことを発表する。</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりする。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで主張とその前提との関係について理解を深め、学習課題に沿って、必要な情報を関係付けて自分の考えを深め、発表する。 	<p>・ 本単元で学んだことをふまえて、「情報社会」を生きるうえで大切なことは何かについて、考えたことを発表する。</p>	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで主張とその前提との関係について理解を深め、学習課題に沿って、必要な情報を関係付けて自分の考えを深め、発表しようとしている。 						1	
	<p>世代間倫理としての環境倫理学 (加藤尚武)</p> <p>○ 未来世代への責任という観点から環境問題を考える。</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の種類に基づく効果的な段落の構成や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 <p>【思考力、判断力、表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、文章の内容や構成を的確に捉え、調べた成果を発表する。 	<p>・ 「近代的な決定システム……しつづめる。」とは、どのようなことを言っているか説明する。</p> <p>・ 「現代は進歩が……時代なのである。」とは、どのようなことを言っているか説明する。</p> <p>・ 「進歩が退廃である時代に生きていく。」とは、どのようなことを言っているか説明する。</p> <p>・ 筆者は、なにが「現在世界の最も中心的な課題である。」と論じているのか、まとめる。</p> <p>・ 未来世代への責任を果たすため環境問題に取り組んでいる身の回りの例を調べ、発表する。</p>	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の種類に基づく効果的な段落の構成や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 <p>【思考力、判断力、表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、文章の内容や構成を的確に捉え、調べた成果を発表しようとしている。 						2	
	<p>定期考査</p>									1
	<p>記号を使う動物 (池上嘉彦)</p> <p>○ 記号としての言語について理解する。</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解する。 <p>【思考力、表現力、判断力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深める。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする言葉の働きを理解し、学習課題に沿って、関連する文章の書き手の立場や目的を考えながら内容の解釈を深め、比較して論じる。 	<p>・ 「既成の語形と……すらしめてみる。」とはどういうことか、「恰のつらら」という比喩を使って説明する。</p> <p>・ 「人間の記号による営み」にはどのようなものがあるか、本文中の「アポロ」と「マンマ」の例をもとに説明する。</p> <p>・ 「一つの言語を……ことでもある」とはどういうことか、日本語のほか英語などの例をあげて説明する。</p> <p>・ 「人間は確かに……なのである。」とはどういうことか、文章全体をおして説明する。</p> <p>・ 身近にある「言語創造」の例を、詩、小説、歌詞などから探して発表する。</p>	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 <p>【思考力、表現力、判断力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする言葉の働きを理解し、学習課題に沿って、関連する文章の書き手の立場や目的を考えながら内容の解釈を深め、比較して論じている。 						3	
2学期	<p>言葉がつくる女と男</p> <p>○ 言葉とアイデンティティの関係について考える。</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解する。 <p>【思考力、表現力、判断力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価する。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする言葉の働きを理解し、学習課題に沿って、文章を多面的・多角的な視点から評価し、複数の文章を比較して論じる。 	<p>・ 「言葉とアイデンティティの関係」において、次の考え方をそれぞれ説明する。</p> <p>①本質主義 ②構築主義</p> <p>・ 「実は『女言葉』や……言語資源なのである。」と筆者が述べている理由を説明する。</p> <p>・ 「服装や言葉がアイデンティティと結びつく」と筆者が述べている理由をまとめる。</p> <p>・ 漫画、アニメ、小説、記事、ドラマ、映画などから「集団のカテゴリーと結びついた言葉遣いの情報」の例をあげ、話し合う。</p>							3	
	<p>学びを広げる</p>	<p>・ 本単元の教材を読み比べ、それぞ</p>	<p>【知識及び技能】</p>							

<p>言葉の力について考える</p> <p>コラム ツイッター哲学</p> <p>○読み比べをとおして「創造性」という観点から言葉の力について論じる。</p> <p>【知識及び技能】 ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解する。</p> <p>【思考力、表現力、判断力等】 ・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・進んで言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする言葉の働きを理解し、学習課題に沿って、文章を多面的・多角的な視点から評価し、複数の文章を比較して論じる。</p>	<p>れの文章が「言葉の創造的な側面」をどのように論じているか500字程度でまとめる。</p>	○	○	<p>・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。</p> <p>【思考力、表現力、判断力等】 ・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・進んで言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする言葉の働きを理解し、学習課題に沿って、文章を多面的・多角的な視点から評価し、複数の文章を比較して論じている。</p>	○	○	2
<p>定期考査</p>					○	○	1
<p>病と科学（柳澤桂子）</p> <p>○「痛み」に着目して医療や化学の限界について考える。</p> <p>【知識及び技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>【思考力、表現力、判断力等】 ・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習の見直しをもって、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら主張を支える適切な根拠をそろえ、調べたことを整理して論述する。</p>	<p>・病気をめぐる「科学信仰」について整理する。</p> <p>・「科学が万能であるかのような錯覚に陥る」理由をまとめる。</p> <p>・「病人から苦しみを……奪われていく」理由をまとめる。</p> <p>・人間は科学とどのように向き合うべきか、筆者の考えをまとめる。</p> <p>・論理的問題をはらんでいる科学技術について具体例を調べ話し合う。</p>	○	○	<p>【知識及び技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>【思考力、表現力、判断力等】 ・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習の見直しをもって、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら主張を支える適切な根拠をそろえ、調べたことを整理して論述しようとしている。</p>	○	○	3
<p>動的平衡（福岡伸一）</p> <p>○生命とは「動的平衡」のシステムであるという考え方を理解する。</p> <p>【知識及び技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>【思考力、表現力、判断力等】 ・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習の見直しをもって、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら主張を支える適切な根拠をそろえ、調べたことを整理して論述する。</p>	<p>・「生命とは何か。」に対するさまざまな回答を、次の観点から整理する。 ①生命への機械論的な理解 ②二十世紀的な見方 ③シェーンハイマーの動的平衡論</p> <p>・シェーンハイマーの研究結果を本文に即してまとめる。</p> <p>・「サステイナブルであること」を筆者はどのように捉えているかまとめる。</p> <p>・筆者がシェーンハイマーの業績を「コペルニクス的転回」「二十世紀最大の科学的発見」と述べる理由をまとめる。</p> <p>・筆者は科学・技術とどのように向き合うべきだと考えているかまとめる。</p> <p>・バイオテクノロジーの「現在」について、どのようなものがあるか調べ発表する。</p>	○			○	○	3

<p>字んたりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>【思考力、表現力、判断力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ロボットやAIに反射される人間」とは、どのようなものか整理する。 「人間は一種の……獲得してきた。」とはどのようなことか、筆者のあげている例を整理する。 「私たちは世界に聞かれていなければならない。」とはどういうことか、筆者の考えをまとめる。 「聞かれた世界で、……扉を開くのだ。」という筆者の考えについてどのように思うか、600字程度にまとめる。 	○				2
<p>「市民」のイメージ（日野啓三）</p> <p>○アメリカの陪審制度の事例をもとに「市民」の意味について考える。</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 <p>【思考力、表現力、判断力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述したり討論したりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者がテレビで見たアメリカの陪審制度はどういうものか整理する。 「普通の人間が『市民』に姿象する。」とはどういうことかまとめる。 筆者の考える「市民社会」とはどういうものか説明する。 「我々は『市民』に……『市民』になるのだ。」というとは、現代社会においてどのような意味をもつのか話し合う。 	○	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 <p>【思考力、表現力、判断力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述したり討論したりしようとしている。 			2
<p>「である」ことと「する」こと（丸山真男）</p> <p>○「市民社会」における権利と義務について考える。</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 <p>【思考力、表現力、判断力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述したり討論したりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 筋ごとに要点をまとめる。 次の部分はどういうことを言っているか、簡潔に説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ①アームチェアから……気性の持ち主 ②ある面では……過近代的でもある ③「である」社会のモラルによってセメント化されてきた ④芸術や教養は「果実よりは花」 ⑤政治には……価値などというものは無い ⑥ラディカル（根底的）な……結びつくこと 「である」論理・「する」論理とはどういうものか、対になっている例を本文から抜き出し、それぞれ説明する。 身近な問題を取りあげ、「である」論理と「する」論理の観点から、800字程度の文章を書く。 	○				3
定期考査						1
合計						

1 学期		<p>集についての筆者の考えをもとに説明する。</p> <p>3 「詩はいつでも近いところにあるのだ」(18・11)とは、どういうことか。今までに読んだことのある詩を取りあげて、話し合う。</p>						
	<p>少年という名前のメカ</p> <p>●小説の寓意について考える。</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「今までの少年たちとはちょっと違うよ」(37・14)とあるが、老夫婦の「今までの少年たち」に対する思いをまとめる。</p> <p>2 「少年は細心の注意を払い、すべてを適度なバランスに保った」(38・8)とあるが、老夫婦との共同生活の中で少年はどのようにふるまったのか。整理する。</p> <p>3 「少年らしくない少年がいることがわかったわ」(41・3)とあるが、少女のいう「少年らしくない少年」とはどのようなものか。整理する。</p> <p>4 この小説のおもしろさはどこにあるか。「今日も少年は歩く……特許出願中」(41・12～13)の部分に留意して話し合う。</p> <p>5 「あなたのおかげで、少年らしくない少年がいることがわかったわ」(41・3)とあるが、「らしさ」とは何だろうか。具体例を挙げて話し合う。</p>		○		○	○	5
	<p>学びを広げる 小説の書き換え</p> <p>●主人公の設定を変え、小説を書き換える。</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「少年という名前のメカ」の主人公の設定を変え、もう一つの「○○という名前のメカ」の物語を作る。</p> <p>①「少年という名前のメカ」の冒頭部分(35・1)にならって次の文の空欄を埋め、主人公の基本的な設定を決定しよう。</p> <p>○○という名前のメカの記憶装置には、()がはじめからインプットされている。だから○○は()。</p> <p>②主人公の設定をもとに、主人公にふさわしい物語の構想を練ろう。その際、次の点に留意しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公は、いつ、どこで、どのような人物に出会うか。 ・そこでどのようなできごとに出会い、どのような会話が交わされるか。 ・主人公はどのように行動し、その行動を周囲の人々はどのように受け止めるか。 ・主人公はどのように人々と別れるか。 <p>③五、六人のグループに分かれ、それぞれの「作品」を発表し合い、感想を交換しよう。</p> <p>④感想交換を受けて、改めて自分の書いた「作品」を振り返り、創作活動を自己評価しよう。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>		○	<p><知・技></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。(1)エ) <p><思・判・表></p> <p>①読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。(書イ)</p> <p><主></p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について体系的に理解し、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫しようとしている。 <p>◆言語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情や情景の描写を、文体や表現の技法等に注意して書き換え、その際に工夫したことなどを話し合ったり、文章にまとめたりする活動。(書イ) 	○	○	5
	定期考査							1
	<p>今日</p> <p>わたしを束ねないで</p> <p>帰途</p> <p>●表現形式や修辞の効果に着目し、それぞれの詩の理解を深める</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>【今日】</p> <p>1この詩の展開について、次の言葉に着目して説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふたたび」／「ただ」／「ばかり」／「だけ」／「まで」 <p>2 第三連「生きることそれが烈しく今日である」には、どのような思いが込められているか、説明する。</p> <p>3 第四連「今日を愛すること／ひとつの短かい歌が死に／今日が小さな喪に捧げられるまで」とはどういうことだろうか、話し合う。</p> <p>【わたしを束ねないで】</p> <p>1「わたし」は各連でそれぞれどの</p>			<p><知・技></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。(1)ウ) ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。(3)ア) ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ) <p><思・判・表></p> <p>①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。(読ア)</p> <p>②他の作品と比較するなどして、文体の特徴</p>			

<p>お砂糖とスパイスと爆発的な何か</p> <p>●批評について理解を深める</p>	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 筆者の考える「批評の仕事」(194・10)とはどのようなものか、説明してみよう。</p> <p>2 「私が考える一番わかりやすいような批評のやり方」(195・14)とは何か、整理する。</p> <p>3 「気をつけなければいけないのは、『自由な解釈』というのは実は全然自由なんかじゃない」(198・11)とあるが、どういうことか。説明する。</p> <p>4 「フェミニスト批評」「クィア批評」がもたらす「楽しみ」について、筆者はどのように説明しているか、まとめる。</p> <p>5 筆者のいう「批評のやり方」(195・14)にならって、文学作品の批評文を書く。</p>			<p><知・技></p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。(1)ア) ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(3)イ) <p><思・判・表></p> <p>①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。(読ア)</p> <p>②文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。(読エ)</p> <p>③作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。(読カ)</p> <p><主></p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。 			6
<p>定期考査</p>							1
							合計
							65



府中西 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 地歴 科目 地理総合

教科：地歴

科目：地理総合

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～8組

使用教科書：（新地理総合 帝国書院）

教科 地歴

の目標：

【知識及び技能】 地理や歴史の変化に関わる諸事象について、相互的な視野から捉え、総合的に社会を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】 地理・歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や位置関係、現在とのつながりなどに着目しつづ、概念などを活用して多面的・多角的に考察する。

【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解できるようにする。

科目 地理総合

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
○地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。 ○地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等等に付けたりにすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調しようとしている。 ○地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	配時			
				知	思	態	
1 学期	《私たちが暮らす世界》 ○地軸の傾きや自転・公転による影響を理解させる。 ○地球上には常に昼と夜が存在することを理解し、時差の影響やそれに対する工夫を考えさせる。	・緯度・経度 ・地球儀と世界地図 ・日本の位置と領域	・緯度・経度について理解している。 ・地球儀と平面の地図の特徴とその差異を理解している。 ・日本の位置と領域について理解している。	○	○	○	5
	《地図や地理情報システムの役割》 ○多様な地図が生活を便利にしていることを理解し、地図利用のさまざまな可能性を考えさせる。 ○地形図から読み取れることについて理解させる。 ○地理院地図の特徴を理解し、紙の地形図との違いについて考察させる。	・地図の種類 ・地形図のルール	・様々な地図の種類とその特徴を理解している。 ・地形図を適切に読み取ることができる。	○	○	○	1
	《地図や地理情報システムの役割》 ○主題図にはさまざまな表現方法があることを理解させる。 ○主題図の表現方法の特徴を理解し、用途に応じてどのように使い分けのかを考察させる。	・主題図の種類と読み取り	・主題図の様々な表現方法と、その特徴を理解している。 ・用途に合わせて、主題図を選択・作成できる。	○	○	○	1
	《地図や地理情報システムの役割》 ○地理情報システム（GIS）が幅広い分野で使われていることについて理解させる。 ○GISとは何かを理解し、私たちの生活への影響を考えさせる。	・地理情報システムと地図	・GISの特徴とその仕組みを理解できる。 ・GISを用いて、情報を適切かつ効果的に表現できる地図を作成することができる。	○	○	○	1
2 学期	《生活文化と自然環境①地形》 ○山地・平野・海岸におけるさまざまな暮らしの工夫について理解させる。	・山地の暮らし ・平野の暮らし ・海岸の暮らし	・適切に図版や資料を読み取りながら、各地で共通してみられる様々な地形の特徴とその成立のメカニズムを理解できる。	○	○	○	1
	《生活文化と自然環境②気候》 ○大気の大循環によって生じる気圧帯について理解させる。 ○気温や降水量に地域差が生じる原因を理解し、それらが衣食住に与える影響を考えさせる。	・多様な気候とその分布	・適切に図版や資料を読み取りながら、一定の法則性をもって共通してみられる様々な気候の特徴とその成立のメカニズムを理解できる。 ・様々な気候因子に地域差が生じる原因を理解できる。	○	○	○	1
3 学期	《自然環境と防災》 ○日本列島の地帯構造とプレートの境目の主題図を用いて、日本の地形の特性について考察させる。 ○日本列島の季節ごとの天候の変化の要因について主題図の読み取りを通して考察させる。	・日本の地形の特色 ・日本の気候の特色	・現在暮らしている日本の地形の特徴について理解できる。 ・現在暮らしている日本の気候の特徴について理解できる。 ・日本の自然環境に関する様々な主題図を、適切に読み取ることができる。	○	○	○	5
	《さまざまな自然災害と防災》 ○各種災害の特徴とメカニズムを理解させる。 ○防災・減災に向けた各地域における取り組みについて、自助・共助・公助の観点から写真資料を用いて考察させる。	・地震災害・津波災害 ・火山の災害と恵み ・気象災害 ・都市と自然災害 ・防災・減災と復旧・復興	・様々な自然災害の特徴と発生のメカニズムについて理解できる。 ・これまで学習した自然環境の特徴や、災害の教訓を踏まえ、特に、自助・共助に関して、どのような対策を講じていくべきかを考え、意見をまとめることができる。 また、それを適切に表現することができる。	○	○	○	1
				○	○	○	7

身
て
整
に
。国

当
数

5

0

0

0

0

0

5

0

計

0

年間授業計画 新様式

府中西 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 公民 科目 公共

教科：公民 科目：公共

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（ 1～4 組：宮原 俊夫） （5～8 組：本城 恵太）

使用教科書：（ 公共704 公共 実教出版 ）

教科 公民 の目標：

【知識及び技能】 考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解できるようにする。

科目 公共 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。	社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。	よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第1編 公共の扉 第1章 社会を作る私たち	1. 生涯における青年期の意義 2. 自己形成の課題（1） 3. 自己形成の課題（2） 4. 職業生活と社会参加 5. 伝統・文化と私たち	・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解させる。・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解させる。・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解させる。	○	○	○	4
	第2章 人間としてよく生きる	1. 古代ギリシアの人間観 2. 科学と人間 3. 自由の実現 4. 社会を作る人間	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解させる。・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解させる。・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けさせる。	○	○	○	4
	第3章 他者とともに生きる	1. 人間と幸福 2. 公正な社会をめざして	・現代の諸課題について自らも他者と共に納得できる解決方法を見出すことに向け、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解させる。・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者と共に納得できる解決方法を見出すことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	2
	第4章 民主社会の倫理	1. 人間の尊厳と平等 2. 自由・権利と責任・義務	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解させる。・人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	2
	第5章 民主国家における基本原理	1. 民主政治の成立 2. 民主政治の基本原則 3. 民主政治のしくみと課題 4. 世界の主な政治制度	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解させる。・個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現させる。	○	○	○	6
2 学期	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 第1章 日本国憲法の基本的性格	1. 日本国憲法の成立 2. 日本国憲法の基本的性格 3. 自由に生きる権利 4. 平等に生きる権利 5. 社会権と参政権・請求権 6. 新しい人権 7. 人権の広がりや公共の福祉 8. 平和主義とわが国の安全 9. こんにちはの防衛問題	・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解させる。・我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるようにするとともに、変化する国際情勢の中で、我が国の安全が世界の平和の維持といかに不可分に関連しているかについて理解させる。・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。	○	○	○	8
	第2章 日本の政治機構と政治参加	1. 政治機構と国会 2. 行政権と行政機能の拡大 3. 公正な裁判の保障 4. 地方自治と住民福祉 5. 政党政治 6. 選挙制度 7. 世論と政治参加	・司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解させる。・政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解させる。	○	○	○	6
	第1章 現代の経済社会	1. 経済主体と経済活動の意義 2. 経済社会の変容 3. 市場のしくみ 4. 市場の失敗 5. 現代の企業 6. 国民所得 7. 経済成長と国民の福祉	・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解させる。・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。	○	○	○	9

		8. 金融の役割 9. 日本銀行の役割 10. 財政の役割と租税	目標を達成するための実践し、能力向上、よきふるまいを身に付けさせる。・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。				
3 学 期	第2章 日本経済の特質と国民生活	1. 戦後日本経済の成長と課題 2. 転機に立つ日本経済 3. 経済社会の変化と中小企業 4. 農業と食料問題 5. 消費者問題 6. 公害の防止と環境保全 7. 労働問題と労働者の権利 8. 今日の労働問題	・多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解させる。・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けさせる。	○	○	○	9
	第1章 国際政治の動向と課題	1. 国際社会と国際法 2. 国際連合と国際協力 3. こんにちの国際政治 4. 人種・民族問題 5. 軍拡競争から軍縮へ 6. 国際平和と日本の役割	・国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、相互に対等なものとして尊重される主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割や領土が領空や領海を含むものであり、国民の基本的な生活を保障し資源を確保する領域であること、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解させる。・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けさせる。	○	○	○	5
	第2章 国際経済の動向と課題	1. 貿易と国際収支 2. 外国為替市場のしくみ 3. 第二次世界大戦後の国際経済 4. 地域的経済統合の進展 5. 国際経済のつながりと課題 6. 発展途上国の諸課題と日本の役割	・経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で自由に行われていること、一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど、国際社会において相互依存関係が一層深まっていること、国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることについて理解させる。・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。	○	○	○	4

府中西高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科：(地理歴史) 科目：(世界史探究入門) 対象：(第2学年 1組～8組選択者) 単位数：2単位

教科担当者：足立聖子

使用教科書：新詳世界史探究 (帝国書院)

使用教材：最新世界史図説タペストリー (帝国書院)

	指導内容	科目世界史探究入門の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	第14章 環大西洋革命 1 世界で最初の工業化 2 アメリカの独立 3 フランス革命とナポレオン戦争 4 ラテンアメリカの革命	<ul style="list-style-type: none"> 産業革命と市民革命について、歴史総合の知識を踏まえて復習する 19世紀イギリスで進められた自由主義改革について知り、考える 	<ul style="list-style-type: none"> 指導内容の単元について関心を持ち、背景などを知る。 教科書や図録等の図版や地図を適切に利用して理解を深めようとする。 定期考査、提出物等により、総合的に判断する。 	4
	5 イギリスの覇権と欧米の国民国家化			
5 月	第15章 1 ヨーロッパに広がる国民国家 (中間考査)	<ul style="list-style-type: none"> ウィーン体制について理解し、自由主義とナショナリズムが模索されながらも19世紀の価値観となったことを学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 指導内容の単元について関心を持ち、背景などを知る。 教科書や図録等の図版や地図を適切に利用して理解を深めようとする。 定期考査、提出物等により、総合的に判断する。 	7
6 月	1 ヨーロッパに広がる国民国家	<ul style="list-style-type: none"> 19世紀ヨーロッパ各国の動きについて学び、1848年革命や社会主義思想、国民国家統合について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 指導内容の単元について関心を持ち、背景などを知る。 教科書や図録等の図版や地図を適切に利用して理解を深めようとする。 	6
	2 合衆国の拡大と国家統合	<ul style="list-style-type: none"> 合衆国の領土拡大と開拓について知り、内戦によって国家の再統合化なされることを理解する 		2
7 月	(期末考査) 第16章 世界の一体化とアジアの変容 1 イスラーム王朝の解体と変容 2 南・東南アジアの変容 3 東アジア諸国の模索と変容	<ul style="list-style-type: none"> 19世紀アジアの変容について、歴史総合の知識を復習する 	<ul style="list-style-type: none"> 指導内容の単元について関心を持ち、背景などを知る。 教科書や図録等の図版や地図を適切に利用して理解を深めようとする。 定期考査、提出物等により、総合的に判断する。 	3
9 月	第17章 世界の一体化の完成とその影響 1 帝国主義と世界分割	<ul style="list-style-type: none"> 第2次産業革命と帝国主義による世界の分割について学び理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 指導内容の単元について関心を持ち、背景などを知る。 教科書や図録等の図版や地図を適切に利用して理解を深めようとする。 定期考査、提出物等により、総合的に判断する。 	2
	2 アジア知識人による体制改革の こころみ	<ul style="list-style-type: none"> 19世紀後半～20世紀初頭のアジア各地域の改革について理解する 		2
10 月	第18章 世界大戦の時代 1 第一次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> 第1次世界大戦とヴェルサイユ・ワシントン体制について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 指導内容の単元について関心を持ち、背景などを知る。 教科書や図録等の図版や地図を適切に利用して理解を深めようとする。 定期考査、提出物等により、総合的に判断する。 	4
	(中間考査)			3
	2 アジアのナショナリズム	<ul style="list-style-type: none"> アジア各地の民族運動について学び理解する 		2

	指導内容	科目世界史探究入門の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	3 大衆社会の到来とファシズム	・大衆社会の成立とファシズムについて学び理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容の単元について関心を持ち、背景などを知る。 ・教科書や図録等の図版や地図を適切に利用して理解を深めようとする。 	2
	4 第二次世界大戦	・第二次世界大戦について知り、その惨禍と戦後体制の構築について学ぶ		2
				2
12 月	(期末考査)		<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容の単元について関心を持ち、背景などを知る。 ・教科書や図録等の図版や地図を適切に利用して理解を深めようとする。 ・定期考査、提出物等により、総合的に判断する。 	3
				2
1 月	第17章 1 冷戦の展開と平和の模索	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦体制と、その経過について学び理解する ・多極化について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容の単元について関心を持ち、背景などを知る。 ・教科書や図録等の図版や地図を適切に利用して理解を深めようとする。 ・定期考査、提出物等により、総合的に判断する。 	2
2 月	2 グローバル化する国際経済とその課題	・冷戦体制の崩壊と、その後の地球的課題について知り理解する		4
3 月	(学年末考査) 3 情報と科学技術によって結びつく世界 4 地球世界の課題の探究	・現代社会の課題について俯瞰し今後の解決を模索する		3

府中西 高等学校 令和6年度（2学年用）教科 数学 科目 数学Ⅱ

教科： 数学 科目： 数学Ⅱ 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者： 水越 友顕 井野 由香 尾崎 明 鈴木 巧 相馬 芳紀

使用教科書：（ 数研出版 新編 数学Ⅱ ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、様々な事象を数学的に表現し処理する技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を理論的に考察する力を身に付け、表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学的論拠に基づいて判断しようとする、また、問題を考察し評価・改善したりしようとする態度を身に付ける。

科目 数学Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の性質や計量について理論的に考察し表現する力、関数関係に着目し事象を的確に表現し、表や式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。	粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	第1章 数と証明 第1節 式と計算 【知識及び技能】 様々な計算が出来る 【思考力、判断力、表現力等】 式を多面的にとらえ適切に変形できる 【学びに向かう力、人間性等】	・3次式の展開と因数分解 ・多項式の除法 ・分數式	【知識・技能】 正確に整式の処理が出来る 【思考・判断・表現】 問題に必要な式変形を考え、計算できる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる	○	○	○	12	
	第1章 数と証明 第2節 等式・不等式の証明 【知識及び技能】 証明の方法を理解している 【思考力、判断力、表現力等】 理論的に考察し、証明する 【学びに向かう力、人間性等】	・等式の証明 ・不等式の証明 ・相加相乗平均	【知識・技能】 正しい方法で証明ができる 【思考・判断・表現】 理論的に考察し、適切に証明ができる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる	○	○	○	3	
	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 【知識及び技能】 複素数の四則演算ができる 【思考力、判断力、表現力等】 2次方程式の解について判別できる 【学びに向かう力、人間性等】	・複素数の相等 ・複素数の四則演算 ・2次方程式の解 ・解と係数の関係	【知識・技能】 性格に計算ができる 【思考・判断・表現】 判別式を適切に利用することができる 解と係数の関係を利用し、問題が解ける 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる	○	○	○	6	
	定期考査			○	○	○	1	
	第2章 複素数と方程式 第2節 高次方程式 【知識及び技能】 剰余の定理・因数定理 【思考力、判断力、表現力等】 因数定理を利用して高次方程式を解く 【学びに向かう力、人間性等】	・剰余の定理 ・因数定理 ・高次方程式	【知識・技能】 剰余の定理を用いて、余りを求めることができる 【思考・判断・表現】 因数定理を利用して高次方程式を解くことができる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる	○	○	○	8	
	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 【知識及び技能】 内分点・外分点、直線・円の方程式 【思考・判断・表現力】 方程式を用いて図形の性質を考察する	・内分点、外分点 ・直線の方程式 ・点と直線の距離 ・2直線の平行と垂直 ・円の方程式 ・3点を通る円の方程式	【知識・技能】 図形の表す方程式を正しく求めることができる 【思考・判断・表現】 図形の方程式を用いて図形の性質を考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる	○	○	○	12	
	第3章 図形と方程式 第3節 軌跡と領域 【知識及び技能】 不等式の表す領域 【思考・判断・表現力】 軌跡の表す方程式 【学びに向かう力、人間性等】	・座標平面上の点の軌跡 ・線分の midpoint の軌跡 ・直線や円を境界線とする領域 ・連立不等式の表す領域	【知識・技能】 不等式の表す領域を理解し、表現できる 【思考・判断・表現】 軌跡の表す方程式を求めることができる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる	○	○	○	4	
	定期考査			○	○	○	1	
	2 学 期	第4章 三角関数 第1節 三角関数 【知識及び技能】 三角関数のグラフの特徴、性質 【思考力、判断力、表現力等】 式とグラフの関係について考察する 【学びに向かう力、人間性等】	・一般角 弧度法 ・三角関数の相互関係 ・三角関数を含む等式 ・三角関数のグラフ ・三角方程式と不等式	【知識・技能】 グラフがかけ、方程式不等式がとける 【思考・判断・表現】 三角関数の性質を理解し、考察、表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる	○	○	○	8
		第4章 三角関数 第2節 加法定理 【知識及び技能】 加法定理 【思考力、判断力、表現力等】 加法定理を利用し、三角関数を合成する 【学びに向かう力、人間性等】	・正弦の加法定理 ・余弦の加法定理 ・正接の加法定理 ・三角関数の合成	【知識・技能】 加法定理を用いて、三角関数の値が求められる 【思考・判断・表現】 三角関数を合成することができる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる	○	○	○	5
定期考査				○	○	○	1	

	<p>第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 【知識及び技能】 指数の拡張、指数法則 【思考力、判断力、表現力等】 指数関数のグラフ、方程式不等式 【学びに向かう力、人間性等】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・累乗根 ・有理数の指数 ・指数関数のグラフ ・指数関数を含む方程式、不等式 	<p>【知識・技能】 指数を含む様々な計算ができる。 【思考・判断・表現】 指数関数のグラフを理解している 方程式不等式を解くことができる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる</p>	○	○	○	6
	<p>第5章 指数関数と対数関数 第2節 対数関数 【知識及び技能】 対数、底の変換公式 【思考力、判断力、表現力等】 対数関数のグラフ、方程式不等式 【学びに向かう力、人間性等】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対数 ・底の変換公式 ・対数関数のグラフ ・対数関数を含む方程式、不等式 	<p>【知識・技能】 対数を含む様々な計算ができる。 【思考・判断・表現】 対数関数のグラフを理解している 方程式不等式を解くことができる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる</p>	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	<p>第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化 【知識及び技能】 微分係数、導関数、極大・極小 【思考力、判断力、表現力等】 関数と導関数の関係について考察する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・微分係数、導関数 ・極大、極小 ・グラフの概形 	<p>【知識・技能】 導関数が求められる 【思考・判断・表現】 3次関数のグラフをかくことができる 極大、極小について考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる</p>	○	○	○	12
	<p>第6章 微分法と積分法 第3節 積分法 【知識及び技能】 不定積分、定積分 【思考力、判断力、表現力等】 定積分を利用して面積を求める 【学びに向かう力、人間性等】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不定積分 ・定積分 ・面積 	<p>【知識・技能】 不定積分、定積分が求められる 【思考・判断・表現】 積分を利用して面積を求めることができる 極大、極小について考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる</p>	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1

府中西 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学B

教科： 数学 科目： 数学B 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者： 尾崎 明 鈴木 巧

使用教科書： （ 数研出版 新編 数学B ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、様々な事象を数学的に表現し処理する技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を理論的に考察する力を身に付け、表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学的論拠に基づいて判断しようとする、また、問題を考察し評価・改善したりしようとする態度を身に付ける。

科目 数学B の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活とのかわりについての認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、問題解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 【知識及び技能】 等差数列と等比数列 【思考力、判断力、表現力等】 数列の規則性を数学的に考察する 【学びに向かう力、人間性等】	・数列の一般項 ・等差数列とその和 ・等比数列とその和	【知識・技能】 数列の一般項や和を適切に求められる 【思考・判断・表現】 数列の規則性を見つけ、考察することができる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1
	第1章 数列 第2節 いろいろな数列 【知識及び技能】 Σ、階差数列 【思考力、判断力、表現力等】 数列の規則性を数学的に考察する 【学びに向かう力、人間性等】	・自然数の2乗の和 ・Σ ・階差数列 ・群数列	【知識・技能】 Σを利用し、数列の和が計算できる 【思考・判断・表現】 階差数列を利用し数列の一般項を求められる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	第1章 数列 第3節 漸化式と数学的帰納法 【知識及び技能】 漸化式から一般項を求める 【思考力、判断力、表現力等】 数学的帰納法を用いた証明 【学びに向かう力、人間性等】	・漸化式 ・数学的帰納法	【知識・技能】 漸化式から一般項が求められる 【思考・判断・表現】 等式や不等式の証明ができる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1
	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 【知識及び技能】 確率変数と確率分布 【思考力、判断力、表現力等】 平均、分散、標準偏差を用いた考察 【学びに向かう力、人間性等】	・確率変数 ・確率分布 ・確率変数の期待値 ・確率変数の分散と標準偏差	【知識・技能】 確率分布が求められる 【思考・判断・表現】 確率分布について多面的に考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 【知識及び技能】 二項分布、正規分布 【思考力、判断力、表現力等】 確率分布の特徴の、様々な代表値を用いた考察 【学びに向かう力、人間性等】	・二項分布 ・正規分布	【知識・技能】 二項分布、正規分布に伴う確率変数の期待値と分散が求められる 【思考・判断・表現】 確率分布の特徴を、様々な代表値を用いて考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる	○	○	○	8
	第2章 統計的な推測 第2節 統計的な推測 【知識及び技能】 標本調査、推定、仮説検定 【思考力、判断力、表現力等】 母集団の特徴や傾向を推測し判断する、調査の方法や結果を批判的に考察する 【学びに向かう力、人間性等】	・標本調査 ・標本平均 ・推定 ・仮説検定	【知識・技能】 標本平均、母比率、標本比率、信頼度 【思考・判断・表現】 母集団の特徴や傾向を推測し判断し、調査の方法や結果を批判的に考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に学習に取り組む態度が見られる	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1

府中西 高等学校 令和6年度（2学年用）教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～8組

教科担当者：荒木・浅井

使用教科書：（現代高等保健体育（大修館））

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			担当 時数
1 学 期	陸上競技 記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につけることができるようにする。	50m走 ・タイムの向上を目指し走り方及びスタートダッシュについて練習する。 ハンドボール投げ ・ジャベリングなどを活用し、投げ方及び身体の使い方について学び記録の更新を目指す。 上体起こし、握力、立ち幅跳び、反復横跳び ・調べ学習、レポート提出を行う。	（知識・技能）陸上競技で用いられる技術の名称と、記録向上につながる動きのポイントを理解することができる。 （思考・判断・表現）動きの習得に適した練習方法を選び、話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができる。 （態度）危険を理解して安全に留意して実施し、勝敗を受け入れ、ルールやマナーを守って活動することができる。	○	○	○	9
	球技（バスケットボール） 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できるようにする。	・安定したボール操作や状況に応じたボール操作（パス、ドリブル） ・ゴールの枠内にコントロールするシュート練習 ・チームの作戦に応じたゲーム練習	（知識・技能）バスケットボールの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができる。 （思考・判断・表現）体力や技能、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームを工夫することができる。 （態度）分担した役割に主体的に取り組み、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができる。	○	○	○	9
	水泳 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができるようにする。	クロール・平泳ぎ ・水をとらえたプルとリズムカルなキックの練習 ・手を前に戻すリカバリーと抵抗の少ない足の引き付けとキック ・50～200m程度の距離を泳ぎながらのコンビネーション	（知識・技能）水泳の各種目で用いられる技術の名称と効率的に泳ぐためのポイントを理解することができる。 （思考・判断・表現）動きを比較して課題を見つけ、知識や技能を活用・応用して練習したり、計画を立てることができる。 （態度）一人ひとりの課題や挑戦を認め、仲間を称え助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができる。	○	○	○	10

府中西 高等学校 令和6年度（2学年用）教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～8組

教科担当者：野口・都竹

使用教科書：（現代高等保健体育（大修館））

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	担当 時数
1 学 期	陸上競技 記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につけることができるようにする。	50m走 ・タイムの向上を目指し走り方及びスタートダッシュについて練習する。 ハンドボール投げ ・ジャベリングなどを活用し、投げ方及び身体の使い方について学び記録の更新を目指す。 上体起こし、握力、立ち幅跳び、反復横跳び ・調べ学習、レポート提出を行う。	（知識・技能）陸上競技で用いられる技術の名称と、記録向上につながる動きのポイントを理解することができる。 （思考・判断・表現）動きの習得に適した練習方法を選び、話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができる。 （態度）危険を理解して安全に留意して実施し、勝敗を受け入れ、ルールやマナーを守って活動することができる。	○	○	○	9
	球技（バレーボール） 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できるようにする。	・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができるようにする。 ・ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返す ・チームの作戦に応じたゲーム練習	（知識・技能）バレーボールの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができる。 （思考・判断・表現）体力や技能、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームを工夫することができる。 （態度）分担した役割に主体的に取り組み、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができる。	○	○	○	9
	水泳 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができるようにする。	クロール・平泳ぎ ・水をとらえたブルとリズムカルなキックの練習 ・手を前に戻すリカバリーと抵抗の少ない足の引き付けとキック ・50～200m程度の距離を泳ぎながらのコンビネーション	（知識・技能）水泳の各種目で用いられる技術の名称と効率的に泳ぐためのポイントを理解することができる。 （思考・判断・表現）動きを比較して課題を見つけ、知識や技能を活用・応用して練習したり、計画を立てることができる。 （態度）一人ひとりの課題や挑戦を認め、仲間を称え助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができる。	○	○	○	10

府中西 高等学校 令和6年度（2学年用）教科 保健体育 科目 保健

教科： 保健体育 科目： 保健 単位数： 1 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： (1,6,7組：荒木) (2,4,5組：野口) (3,8組：清水) (組：) (組：) (組：)

使用教科書： (現代高等保健体育 (大修館書店))

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
			知	思	態	
1 学 期	3単元 生涯を通じる健康 思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることを理解できるようにする。その際、これらの変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であることを理解できるようにする。	01 ライフステージと健康 02 思春期と健康 03 性意識と性行動の選択	○	○	○	5
	結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解できるようにする。その際、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解できるようにするとともに、健康課題には年齢や生活習慣などが関わることについて理解できるようにする。	04 妊娠・出産と健康 05 避妊法と人工妊娠中絶 06 結婚生活と健康	○	○	○	5
	中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、地域における交流をもつことなどが関係することを理解できるようにする。	07 中高年と健康	○	○	○	2
定期考査			○	○		1
労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことを理解できるようにする。また、労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることを理解できるようにする。	08 働くことと健康 09 労働災害と健康	・労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。 ・労働と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3

2 学 期	働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことを理解できるようにする。	10 健康的な職業生活	・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	○	○	○	2
	4単元 健康を支える環境づくり 人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて理解できるようにする。	01 大気汚染と健康 02 水質汚濁、土壌汚染と健康	・人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	○	○	○	2
	健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であることについて理解できるようにする。	03 環境と健康にかかわる対策 04 ごみの処理と上下水道の整備	・健康への影響や被害を防止するために環境基本法などの法律等が制定されており、環境基準の設定、排出物の規制、監視体制の整備などの総合的・計画的対策が講じられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
	食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律等が制定されており、様々な基準に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の製造・加工・保存・流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて理解できるようにする。	05 食品の安全性 06 食品衛生にかかわる活動	・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	○	○	○	2
	定期考査			○	○		1
3 学 期	我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて理解できるようにする。	07 保健サービスとその活用 08 医療サービスとその活用	・我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	○	○	○	3
	医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて理解できるようにする。	09 医薬品の制度とその活用	・医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	○	○	○	2
	我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて理解できるようにする。	10 さまざまな保健活動や社会的対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加	・我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・様々な保健活動や社会的対策について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
定期考査			○	○		1	
							合計
							35

府中西 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科

芸術 科目 音楽Ⅱ

教科：芸術

科目：音楽Ⅱ

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（1～4組：横井明子）

使用教科書：（「高校生の音楽2」教育芸術社

）

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】芸術に関する科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】想像的な表現を工夫したり、芸術の良さや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を想像していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的是いけいなどとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		歌	器	創						
1 学 期	A 単元：リエンテーション、歌唱 【知識及び技能】 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 歌唱に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに歌唱表現を創意工夫ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に表現活動に取り組む。	・指導事項：歌唱 ・教材：教科書、自校作成プリント	○			【知識及び技能】 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 歌唱に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに歌唱表現を創意工夫ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に表現活動に取り組むことができる。	○	○	○	10
	A 単元：器楽 【知識及び技能】 曲想と楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに器楽表現を創意工夫することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に表現活動に取り組む。	・指導事項：器楽 ・教材：教科書、自校作成プリント		○		【知識及び技能】 曲想と楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに器楽表現を創意工夫することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に表現活動に取り組むことができる。	○	○	○	8
2 学 期	A 単元：歌唱 【知識及び技能】 様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性を理解し、他者との調和を意識して歌う技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 歌唱に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かな歌唱表現を創意工夫ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に表現活動に取り組む。	・指導事項：歌唱 ・教材：教科書、自校作成プリント	○			【知識及び技能】 様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性を理解し、他者との調和を意識して歌う技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 歌唱に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かな歌唱表現を創意工夫ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に表現活動に取り組むことができる。	○	○	○	12
	A 単元：器楽 【知識及び技能】 様々な表現形態による器楽表現の固有性や多様性を理解し、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに器楽表現を創意工夫することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に表現活動に取り組む。	・指導事項：器楽 ・教材：教科書、自校作成プリント		○		A 単元：器楽 【知識及び技能】 様々な表現形態による器楽表現の固有性や多様性を理解し、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに器楽表現を創意工夫することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に表現活動に取り組むことができる。	○	○	○	10
	A 単元：創作 【知識及び技能】 音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解し、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに創作表現を創意工夫することができる。	・指導事項：創作 ・教材：教科書、自校作成プリント	○			【知識及び技能】 音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解し、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに創作表現を創意工夫することができる。	○	○	○	8

府中西 高等学校 令和6年度（2 学年用） 教科 芸術 科目 美術Ⅱ

教科：芸術

科目：美術Ⅱ

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 選択

教科担当者：（選択：町田 法生）

使用教科書：（「高校生の美術Ⅱ」日本文教出版）

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】芸術に関する科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】想像的な表現を工夫したり、芸術の良さや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を想像していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 美術Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		絵 ・ 彫	デ 映	鑑 賞					
1 学 期	A 単元：リエンション、鑑賞、素描 【知識及び技能】 鉛筆による明暗表現の理解。 【思考力、判断力、表現力等】 素描を行う上で必要な基礎的な事項について理解し、遠近法を用いて表現ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 明度の段階が感覚で覚えらるる。計画性をもって、丁寧に制作に取り組む	・指導事項：鑑賞、素描基礎 パースペクティブについての理解 ・教材：教科書、自校作成プリント	○		○				4
	A 単元：素描 【知識及び技能】 素描制作における構図についての理解をスケッチを通して考える。 【思考力、判断力、表現力等】 鉛筆の使い方の工夫について、様々なタッチによる表現を試す。 【学びに向かう力、人間性等】 明度の段階が感覚で覚えらるる。計画性をもって、丁寧に制作に取り組む	・指導事項：鑑賞、素描基礎 ・教材：教科書、自校作成プリント	○						10
	A 単元：色彩構成 【知識及び技能】 アクリルガッシュの特徴を理解し、適切な着色方法ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 色相、明度、彩度の違いを意識し表現方法を工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって、丁寧に制作に取り組む。	・指導事項：色彩構成 色相、明度、彩度についての理解 アクリルガッシュの基本技法 ・教材：教科書、自校作成プリント		○					10
2 学 期	A 単元：色彩構成 【知識及び技能】 アクリルガッシュの特徴を理解し、適切な着色方法ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 色相、明度、彩度の違いを意識し表現方法を工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって、丁寧に制作に取り組む。	・指導事項：色彩構成 色相、明度、彩度についての理解 画面構成と配色計画 ・教材：教科書、自校作成プリント	○						4
	A 単元：デザイン 【知識及び技能】 日常生活でのデザインの役割を把握する。 【思考力、判断力、表現力等】 グラフィックデザインについての理解。画面構成、レイアウトの考察。 【学びに向かう力、人間性等】 計画性をもって、丁寧に制作に取	・指導事項：デザイン イメージ構成 抽象形を用いたデザイン ・教材：教科書、自校作成プリント	○		○				20

府中西 高等学校 令和6年度（2学年用）教科 書道Ⅱ 科目 書道Ⅱ

教科：芸術 科目：書道Ⅱ 単位数：2 単位
 対象学年組：第 2 学年
 教科担当者：（5～8組：北島）

使用教科書：（東京書籍 書道Ⅱ）

教科 芸術 の目標： 芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力をとお育成することを目指す。
 【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 書道Ⅱ の目標： 書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活1会の中の文・や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	相当時数	
1学期	漢字の書（小楷） 写経について理解を深める。実用的な書写能力を高める。 全体の構成を生かした表現を身に付ける。 最後まで書き上げる達成感を味わうとともに、持続力を身に付ける。	「写経 隅寺心経」 教科書、書道用具（写経用紙）	写経について理解を深めている。（時代・文化）線質・字形の表現の技能を身に付け、書写能力を向上させている。 全体の構成について構想し、工夫している。 写経の意味や価値を考え、262字を書ききるという達成感を味わいつつ、持続力を身に付けることができる。	○	○	○	18
	漢字の書（硬筆） 書道Ⅰの学習を踏まえ、線質・字形・構成の要素を理解している。 目的や用途、表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 自身の表現の意図に基づき、主体的に取り組もうとしている。	硬筆 教科書、副教材『ペン習字の基礎』、ボールペンを含む筆記用具、	楷書・行書の用筆法を踏まえ、文字の大きさや位置に留意して書くことができる。 書式にあった表現に努め、全体の構成について構想し工夫することができる。 硬筆という身近な表現学習に対して、主体的に取り組むことができる。	○	○	○	2
	漢字の書（篆書） 篆書の成立する時代や変遷を理解し、特徴と用筆法を習得する。 篆書の価値と特徴について考え、その美について理解を深める。 篆書のよさや美しさを甘受し、幅広い表現の学習に主体的に取り組もうとしている。	「石鼓文」 教科書、書道用具、一人1台端末の活用	篆書の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解している。 篆書の表現形式に応じた全体の構成について工夫している。 篆書の価値や表現の特徴を理解し、幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
2学期	漢字の書（篆刻） 篆刻の手順を把握し、用具の使い方、片付け方を学び、印を完成する。 篆書の特徴を理解して、方形にバランス良く構想している。 毛筆とは違う表現の学習に関心を持って取り組むことができる。	篆刻 ・手順、用具の使い方、片付け方 教科書、篆刻の用具・用材 一人1台の端末の活用	篆刻の手順、用具の扱い方を覚え、印を完成している。 篆書の特徴を理解して、方形にバランス良く構想することができる。毛筆とは違う表現の学習に関心を持って取り組むことができる。そして、幅広い学習活動の体験を通して文化に親しむ。	○	○	○	10
	漢字の書（隸書） 隸書の成立する時代や変遷を理解し、特徴と用筆法を習得する。 隸書の価値と特徴について考え、その美について理解を深める。 隸書のよさや美しさを甘受し、幅広い表現の学習に主体的に取り組もうとしている。	「礼器碑」 教科書、書道用具、一人1台端末の活用	隸書の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解している。隸書の表現形式に応じた全体の構成について工夫している。 隸書の価値や表現の特徴を理解し、幅広い表現の学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	漢字の書（草書） 草書の成立する時代や変遷を理解し、特徴と用筆法を習得する。 草書の価値と特徴について考え、その美について理解を深める。 草書のよさや美しさを甘受し、幅広い表現の学習に主体的に取り組もうとしている。	「書譜」 教科書、書道用具、一人1台端末の活用	草書の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解している。 草書の表現形式に応じた全体の構成について工夫している。 草書の価値や表現の特徴を理解し、幅広い表現の学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	漢字の書（作品制作） 半紙の大きさは違う学習をすることで、臨書学習が進む視点で捉えられ、より学習効果を上げることができる。 作品制作のため、落款を含めたバランスも意識し全体の構成について構想し工夫している。 通常と違う大字書きすることで、ダイナミックな運筆など毛筆表現の魅力を味わい、主体的に取り組もうとしている。	作品制作（半切1/2） ・各自が五書体より選択して臨書 ・落款を含めた紙面構成 教科書、書道用具（半紙、半切1/2） 一人1台端末の活用	通常より大字書きすることで、臨書学習が一層効果を上げることができる。 臨書だけではなく、落款を含めたバランスを意識して構成することができる。 ダイナミックな運筆など毛筆表現の魅力を体験し、一層書道に興味を持ったり、心豊かな気持ちを味わうことができる。	○	○	○	8

3 学 期	仮名の書 書道Ⅰの学習を踏まえて、表現の技能を身に付けている。 短冊書式に倣って、全体の構成について構想し工夫している。 仮名の書の表現の特質や美しさを味わい、幅広い学習に主体的に取り組もうとしている。	「高野切第一種」 教科書、書道用具（短冊）、一人1台端末の活用	書道Ⅰの学習を踏まえて、字形、線質、構成等の表現を身に付けることができている。 短冊書式を理解して、仮名の書の全体の構成について構想することができている。 仮名の書のよさや美しさを味わい、幅広い表現の学習に意欲的に取り組むことができている。	○	○	○	6
	漢字仮名交じりの書 漢字と仮名の調和に留意して表現しようとしている。意図に即した表現を創意工夫しようとしている。 自分が表現したい書風をイメージしようとしている。 自己を開放して表現することへ主体的に取り組もうとしている。	創作 創作の手順について （創作のカードの作成） 漢字と仮名の調和について 教科書、書道用具（色紙）、顔彩 絵の具等の用材	漢字と仮名の調和に留意して表現することができている。 自分が表現したい書風をイメージすることができ、意図にあった表現の工夫ができている。 自己を開放して表現する創作において、表現する喜びを感じ意欲的に取り組んでいる。	○	○	○	6

1年間のまとめ ・製本という技術を覚える。 ・鑑賞や製作を通して、書を取り巻く全般において発見や喜びを感じることができるようにする。 日本文化に親しみ、心の豊かさを育むことができている。	和綴製本（手順） ・1年分の提出作品を製本する。 教科書、書道用具、筆記用具、製本用具（表紙、針、糸、糊）	和綴製本の技術を覚え、完成することができる。 様々な書の美があることを発見し、表現する喜びや作品をひとつにまとめ上げた達成感を味わうことができている。 日本文化に親しみ、一層の興味や関心が心豊かな心情を育んでいる。	○	○	○	2
						合計
						58

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】				【学びに向かう力、人間性等】					
3 学 期	<p>・自分の願望について、詳細な説明や理由を付け加えてスピーチすることができる。</p> <p>・AIと共に生きるのに何が重要かについて、資料やデータを示して発表することができる。</p>	<p>Vision Quest IIのLesson9: What if you were rich? [文法事項] 仮定を表す(直接法、仮定法、その他の仮定)の意味・構文</p> <p>Vision Quest IIのLesson10: How might AI affect our lives? [文法事項] 数量を表す(可算名詞・不可算名詞、数量を表す表現、)割合・数量の変化)の表現・構文</p>					<p>【知識・技能】情報や考え気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して伝え合うために主語を用いた構造を理解している。将来の目標について、自分自身の状況や展望を論理の構成や展開を工夫して、話して伝え合う技術を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】自分の目標について、学校瀬克について、クラスメートに詳しく説明するために、情報や考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて書いている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】目標達成について、情報や考え気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いて書いて伝えようとしている。</p>				6
	<p>・「10代の若者は8～9時間の睡眠をとるべきか」という議題のディベートにおいて、自分の立場から主張や根拠となる考えを述べるができる。</p>	<p>Vision Quest IIのLesson11: What is a healthy life? [文法事項] 比較を表す(原級比較、比較級、最上級)</p>					<p>【知識・技能】情報や考え気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して伝え合うために主語を用いた構造を理解している。将来の目標について、自分自身の状況や展望を論理の構成や展開を工夫して、話して伝え合う技術を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】健康的なライフスタイルについて、学校のついて、クラスメートに詳しく簡単な語句や文を用いて書いている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】目標達成について、情報や考え気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いて書いて伝えようとしている。</p>				6
	学年末考査										1

合計

70

府中西 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 家庭 科目 家庭基礎

教科： 家庭 科目： 家庭基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者： (1～8組 a：滝本) (1～8組 b：田制)

使用教科書： (家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍 家基701))

教科 家庭 の目標： 自立する力を身につけ、生涯を見通して生活の中の課題を解決する力を身につけ、よりよい人生を送れるようにする。

【知識及び技能】生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活の中から問題を見いだして課題を設定し、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標： 自立する力を身につけ、生涯を見通して生活の中の課題を解決する力を身につけ、よりよい人生を送れるようにする。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	相当 時数
1 学 期	・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。	第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○	○	○	2
	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・社会制度としての家族や家族と	第2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	4
	・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 ・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 ・子どもが健康やかに育つ社会を	第3章 子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 5 これからの保育環境	・乳幼児期の心身の発達と生活について理解している。 ・子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○	○	○	6
	・被服製作実習を通して、手縫いやミシンの使い方の技術を習得する。	第7章 衣生活をつくる 被服実習	・被服の計画・管理・製作に必要な技能を身に付けている。	○	○	○	6
2 学 期		第7章 衣生活をつくる 1被服の役割を考える 2被服を入手する 3被服を管理する	・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・被服材料について理解している。 ・被服構成について理解している。 ・被服衛生について理解している。	○	○	○	6
		第6章 食生活をつくる 1食生活の課題について考える 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎 7これからの食生活	・食品の栄養的特質について理解している。 ・食品の調理上の性質について理解している。 ・自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○	○	○	14
		第8章 住生活をつくる 1住生活の変遷と住居の機能 3これからの住生活	・ライフステージに応じた住生活の特徴について理解している。 ・住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○	○	○	8
		第9章 経済生活を営む 1情報の収集・比較と意思決定 1購入・支払いのルールと方法	・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費行動における意思決定について理解している。 ・責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○	○	○	8

に付けている。

3
学
期

第4章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 3 高齢者の心身の特徴	・高齢者を取り巻く社会環境について理解している。 ・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○	○	○	6
第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 5 共に生きる	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 ・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○	○	○	4
第10章 持続可能な生活を営む 1持続可能な社会を目指して	・生活と環境との関わりについて理解している。 ・持続可能な消費について理解している。 ・持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。	○	○	○	6
第11章 これからの生活を創造する 1生活をデザインする	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。				合計 70

府中西 高等学校 令和6年度（2学年用）教科 総合的な探究の時間 科目 人間と社会

教科： 総合的な探究の時間 科目： 総合的な探究の時間 単位数： 1 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者： （1組：瀨尾）（2組：宮田）（3組：斉藤）（4組：田中）（5組：佐々木）（6組：横井）（7組：荒木）（8組：水越）
使用教科書：（ ）

教科 総合的な探究の時間 の目標：

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

科目 人間と社会 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	○学年集会において、学校生活、進路に関する話を聞き、理解する。 ○自分のクラスについて理解する。 ○校外学習について理解する。 ○S T A R Tの目標について理解する。	オリエンテーション 各クラスでの交流 校外学習ガイダンス					2
	○今年度の探究活動について理解する	探究ガイダンス					4
	○進路概況、進路活動について理解する。	進路の手引きガイダンス					3
	○選択科目についての説明を聞き、理解する。 ○オープンキャンパスについて理解する	選択科目ガイダンス オープンキャンパスガイダンス					4
2 学 期	○修学旅行の行先について調査・考察を行う	修学旅行事前ガイダンス					5
	○探究活動のテーマ設定を行う	探究ガイダンス					5
3 学 期	○探究発表を行う	探究ガイダンス					5
	○進路に関して、大学・専門学校の話聞く	進路ガイダンス					5
合計							33